

## 行田市の観光行政の取組について

駒見行彦(令和研究会)



**問** 岸和田市に視察で訪れた際「オシロロボット」カードをいただいた。お城を有する市内の市町村が登録するもので、本市においても「オシロロボット」へ登録し更なるお城ファンの獲得に向け取組んでみてはどうか。

**答** 本市としても、忍城とロボットを組み合わせた取組は大変話題性があると認識しており、先進自治体の取組を参考に導入について検討してまいりたい。

**問** 田んぼアート稲刈り後の跡地有効活用について、市内にある園芸専門学校テクノ・ホルティやものづくり大学との連携事業や市内NPO等との共催を考えてはどうか。

**答** 過去に市内で花いっぱい運動を行い連携したことがある。

今後刈取り後の活用を検討する中で、この2校に限らず、効果を高めるため連携の可能性について考えていく。

## スマート農業と

## 6次産業化を重点分野に

新 諒平(令和研究会)



**問** これまで市は「雇用を生む企業ならどこでもいい」との方針だったが、重点分野を定めるべきでは？

**答** 特定の産業に絞るのではなく、雇用を生む企業を幅広く誘致する方針だが、行田市の基幹産業である農業には特に注力し、スマート農業の導入と6次産業化を推進する。

農地の集積や法人化、スマート農業関連の研究施設の誘致を進め、農業を成長産業として育てる。

**問** 重点課題に「産業の創出と雇用の促進」が掲げられているが予算が少ないのでは？例えば、令和7年度の企業誘致促進事業の予算は十分なのか？

**答** 企業誘致促進事業の予算は約954・3万円で、埋蔵文化財の試掘や企業誘致活動の調査に活用。企業立地のための環境整備は進めているが雇用創出に直結する施策への予算は十分ではない。ただし、企業誘致方針を具体化する中で、支援制度の導入も含めた今後の施策を検討する。

## 企業誘致および行田の産業について

小林 淳一(令和研究会)



**問** 埋蔵文化財の先行試掘調査の進捗状況について。

**答** 9地区26箇所の調査を実施済。来年度も8地区27箇所の調査を予定している。

**問** 農業従事者の推移は。

**答** 農家数は10年間で約3割減少し、農業従事者数は約4割減少している。

**問** 6次産業化の具体的な事例はあるか。

**答** 行田在来青大豆の商品開発・販売促進協議会が独自の商品を販売し、試作品の開発も進んでいると聞いている。

**問** 植物工場の設置や誘致は可能か。

**答** 農業振興地域の整備に関する法律や農地法の基準を満たせば、立地の見込みはある。

〔その他の主な質問〕

○市役所および市役所周辺の駐車場利用について

